

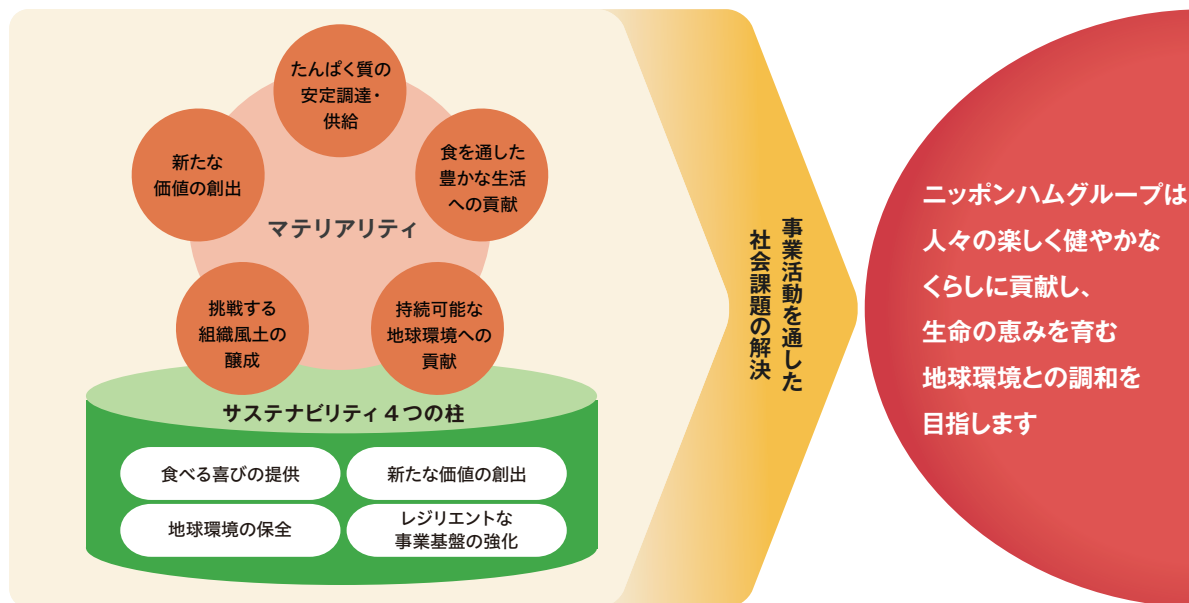
新たなサステナビリティ戦略を策定しました

サステナビリティの取り組みは企業経営にとってますます重要になっています。気候変動などの環境問題から、人権や人的資本など、幅広い分野にわたる社会的課題への対応が求められています。特に畜産業では、家畜由来の温室効果ガスや飼養に伴う土地や水の利用に関連する生物多様性への配慮が国際的に注視されています。また国内においては畜産業の担い手不足といった課題も解決しなければなりません。

2024年4月、ニッポンハムグループは中期経営計画2026の策定に合わせて、事業活動を通じて社会課題を解決し、人々の楽しく健やかな生活に貢献し、地球環境との調和を目指す新たなサステナビリティ戦略を策定しました。この戦略は、「食べる喜びの提供」「新たな価値の創出」「地球環境の保全」「レジリエントな事業基盤の強化」の4つの柱で構成されています。

また、マテリアリティについてもビジネス環境の変化に応じて見直しを図り、重点課題への取り組みを加速させていきます。例えば環境面では、Vision2030のゴールに向けたプラスチック使用量の削減目標を新たに設定し、実践していきます。

このように、事業戦略とサステナビリティ戦略を両輪で進めることにより、持続可能な社会の実現に貢献します。



サステナビリティ4つの柱

食べる喜びの提供

体づくりに欠かせないたんぱく質商品を提供し続けるとともに、多様化するライフスタイルや価値観に対応し、人々の健やかなくらしに貢献するために、美味しさの感動と健康の喜びをお届けし続けます。

新たな価値の創出

当社の強みであるたんぱく質を柱とし、自由な発想でさまざまなパートナーと共創し、新たな事業の創出に挑戦します。

地球環境の保全

たんぱく質の源となる生命の恵みを育む地球環境を保全するため、サプライチェーン全体で生じる環境負荷を低減し、地球環境に調和した事業活動を推進します。

レジリエントな事業基盤の強化

将来予測が困難な中でも社会の変化を迅速かつ的確に捉え、たんぱく質商品の提供に加えて畜産業を有する当社特有の課題に対応し、柔軟で強固な事業基盤を構築します。